

CF-200A_Sigfox_LSGseries_Setting

使用方法 (var2.00)

目次

1.構成図.....	2
2.シリアルポートの設定.....	2
3.CF-200A 設定モード切替	3
4.CF-200A 設定データ書込	4
5.本体から読み出し	8
6.ファイルから読み出し	9

1. 構成図

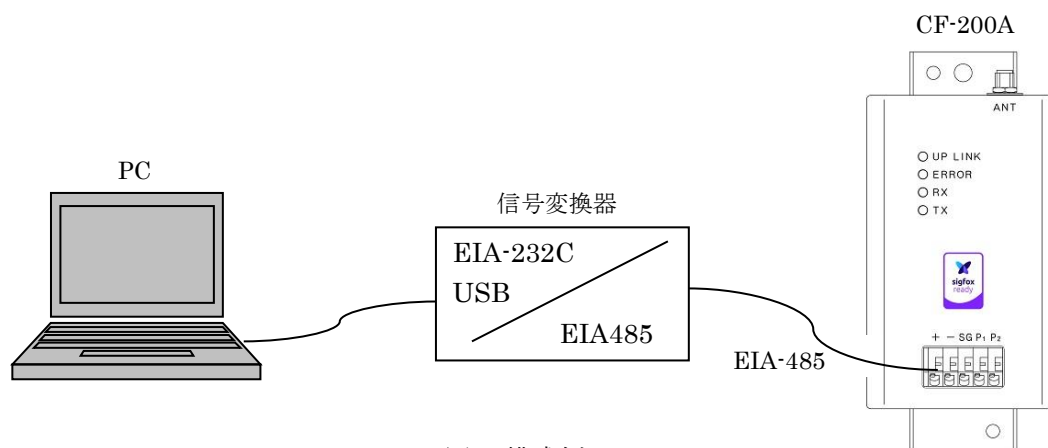


図 1. 構成例

PC : 設定用パソコン
 CF-200A : Sigfox Serial Converter
 信号変換器 : EIA-485 - EIA-232C 変換器(市販品)
 推奨 メーカー : LINE EYE
 型番 : SI-35USB

※EIA-485 ラインに LSG-200 シリーズが接続されていても設定可能です。

2. シリアルポートの設定

シリアルポート設定にて使用 COM ポートを選択し”接続”をクリックして下さい。

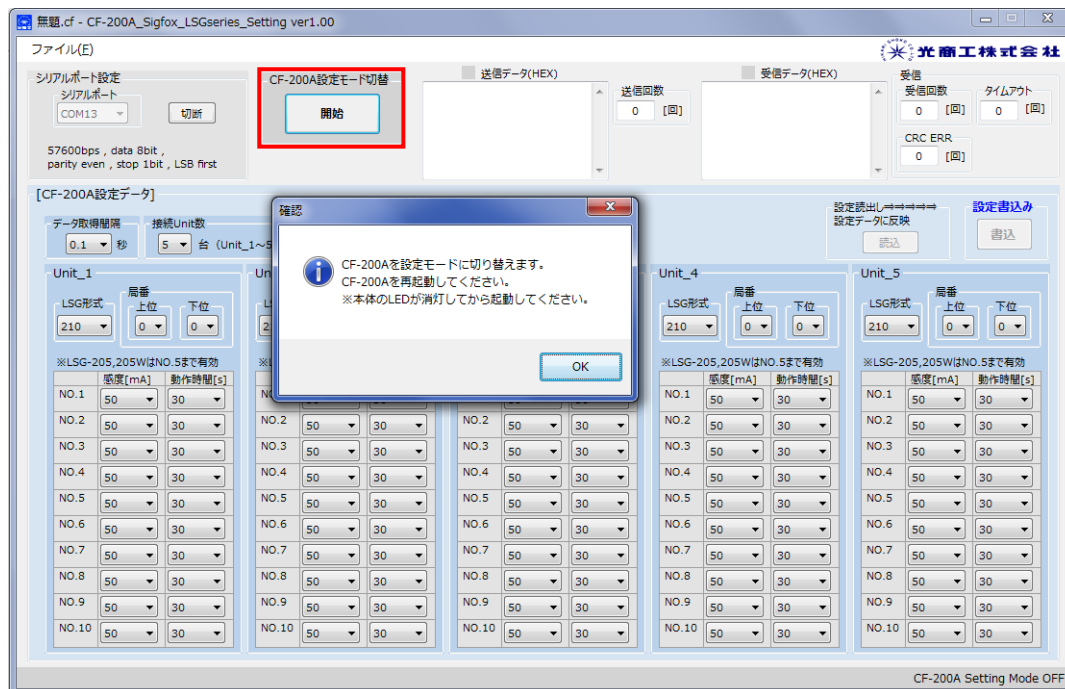


図 2. メイン画面

3. CF-200A 設定モード切替

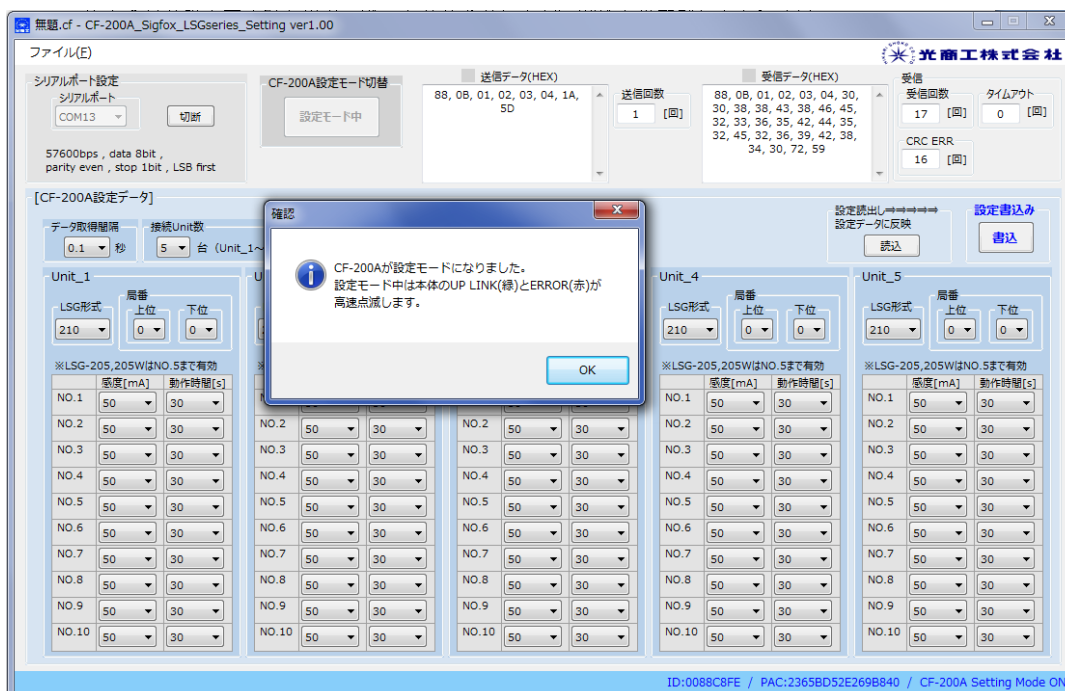
CF-200A 設定モード切替にて” 開始” をクリックして下さい。

ダイアログが表示されるので” OK” をクリックして CF-200A を再起動して下さい。



CF-200A から設定切替信号を受信すると設定モードに切り替わります。

ダイアログが表示されるので” OK” をクリックして下さい。



4. CF-200A 設定データ書込

設定データ（データ取得間隔、接続 Unit 数、動作確認間隔、形式、局番、感度、動作時間）を目的の値に選択して下さい。

- ①データ取得間隔 : サンプル周期を設定します。
 ・ 0.1-0.2-0.3-0.4-0.5-0.6-0.7-0.8-0.9-1.0[秒]
- ②接続Unit 数 : 使用する LSG-200 シリーズの台数を設定します。
 ・ 0-1-2-3-4-5[台] 注)0 の場合、疎通確認機能のみ使用可
- ③動作確認間隔 : Sigfox 通信の疎通を確認するメッセージを送信する周期を設定します。
 ・ なし-1-2-3-4-5-6-7-8-9-10-11-12-13-14-15-20-25-30[日]
- ④形式 : 使用する LSG-200 シリーズの形式を設定します。
 ・ 210(集合形デジタル漏電検出装置 10 回路監視用) -
 205(集合形デジタル漏電検出装置 5 回路監視用) -
 205W(集合形デジタル二段警報漏電検出装置 5 回路監視用)
- ⑤局番 : 使用する LSG-200 シリーズの局番と合わせて設定します。
- ⑥感度 : プレアラーム感度を設定します。
 ・ 50-100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000-2000-3000
-4000-5000[mA] (下線部は LSG-205W のみ)
- ⑦動作時間 : プレアラーム動作時間を設定します。
 ・ 30-60-90-120-150-180-210-240-270-300[秒]

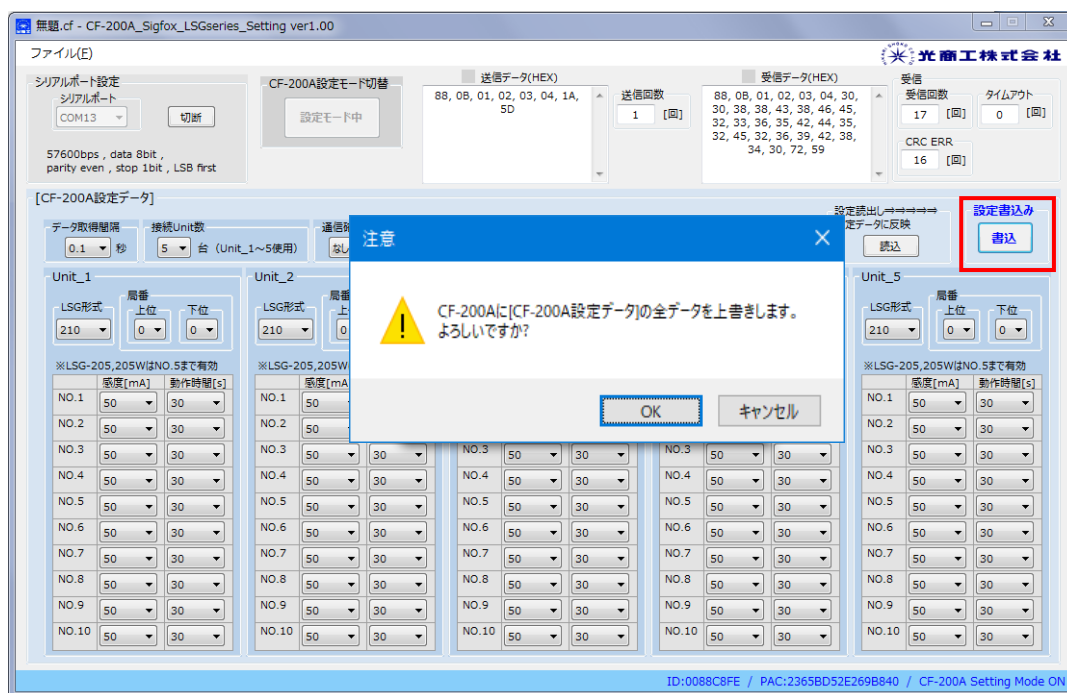
⑧復電通知インターバル：復電通知電圧値以上の制御電源電圧を確立してから、
復電通知を行うまでの時間を設定します。
・ 30秒-1分-2分-3分-4分-5分-6分-7分-8分-9分-10分-15分
-20分-25分-30分

⑨復電通知電圧値：復電通知を行う制御電源電圧を設定します。
・ 90-91-92-93-94-95[V] ※注

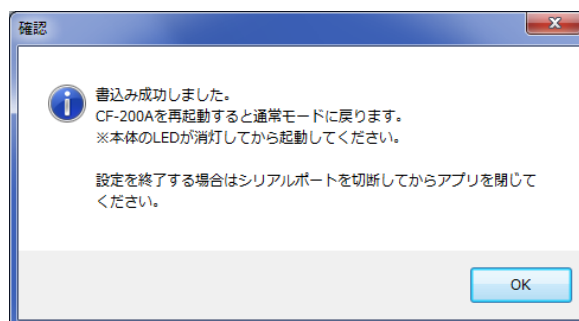
⑩停電通知電圧値：停電通知を行う制御電源電圧を設定します。
・ 80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90 [V] ※注

※注 復電通知電圧値と停電通知電圧値の差は 5V 以上に設定してください。

設定選択が終了したら設定モード中に“書込”をクリックして下さい。
ダイアログが表示されるので” OK” をクリックして下さい。



書込が成功するとダイアログが表示されるので” OK” をクリックして下さい。



作成した設定コンボボックス（データ取得間隔、接続 Unit 数、動作確認間隔、形式、局番、感度、動作時間、復電停電設定）はツールバーの“名前を付けて保存”から
0 ファイル保存する事が出来ます。※設定ファイル(拡張子.cfa)

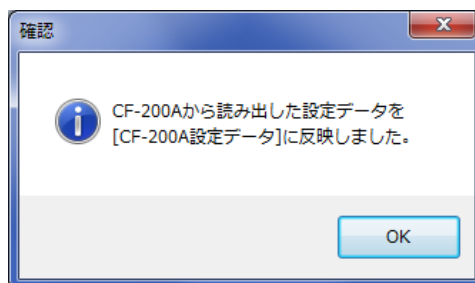


5. 本体から読み出し

本体の設定を読み出す場合は設定モード中に設定読出しから“読込”をクリックして下さい。



読込が成功するとダイアログが表示されるので”OK”をクリックして下さい。



CF-200A から読み出した設定データを設定コンボボックス（データ取得間隔、接続Unit数、動作確認間隔、形式、局番、感度、動作時間、復電停電設定）に反映するので再設定が容易になります。

6. ファイルから読み出し

ツールバーのファイル”開く”から保存された設定ファイル(拡張子.cfa)を開く事で、ファイルの設定データを設定コンボボックス（データ取得間隔、接続 Unit 数、動作確認間隔、形式、局番、感度、動作時間、復電停電設定）に反映します。



改訂履歴

日付	バージョン	変更内容
2020/08/28	1.00	初版
2021/06/11	2.00	復電通知インターバル，復電通知電圧値，停電通知電圧値を追加設定できるようにアプリ変更 設定ファイル拡張子 .cf → .cfa に変更